

第8回 港湾海岸防災協議会研究会

令和6年能登半島地震における 港湾の復旧状況について

令和8年2月5日
石川県奥能登土木総合事務所
事業調整室長 前田輝也

目次

1. 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨の概要
2. 港湾の被害状況
3. 地震発災後の港の役割
4. 港湾の復旧・復興の状況
5. 能登半島地震を踏まえた
金沢港の港湾計画の見直し（金沢港将来ビジョン）

1. 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨の概要

令和6年能登半島地震の概要



発生時刻 令和6年1月1日16時10分頃
震源地 石川県能登地方（震源の深さ ごく浅い）
地震の規模 マグニチュード7.6（県内の最大震度7）
被害の状況 死者684人（うち災害関連死456人）
住宅被害154,934棟

※令和7年12月25日18時 現在



火災（輪島市河井町地内）



道路被害（のと里山海道）



トンネル崩壊（国道249号）



家屋倒壊（珠洲市三崎町地内）



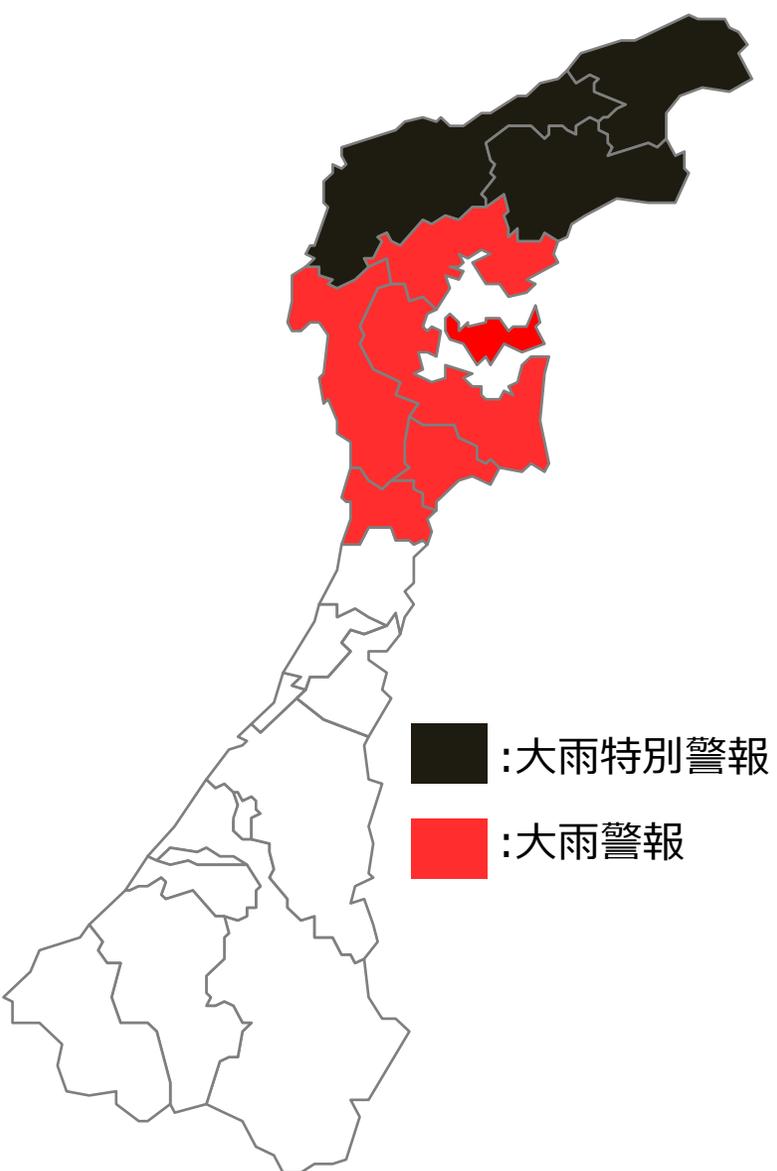
建物倒壊（輪島市河井町地内）



液状化（内灘町西荒屋地内）



地盤隆起（鹿磯漁港(輪島市)



令和6年9月21日

- ・ **輪島・珠洲で観測史上最大の降雨**

→1時間降水量：輪島市120.5mm、珠洲市83.5mm

- ・ 線状降水帯が発生し、**県内初となる大雨特別警報**の発表

- ・ 能登半島地震により山間部で崩れた土砂や倒木が豪雨で流されて河川の氾濫を拡大し、土砂災害が発生する**複合災害**

<人的・住家被害の状況> R7.12.23時点

死者 20人 →水害による溺死、土砂災害による圧死など
うち災害関連死 4人

負傷者 47人 (うち重傷 2人)

住家被害 1,902棟 (うち全壊 82棟)

動画（約5分）

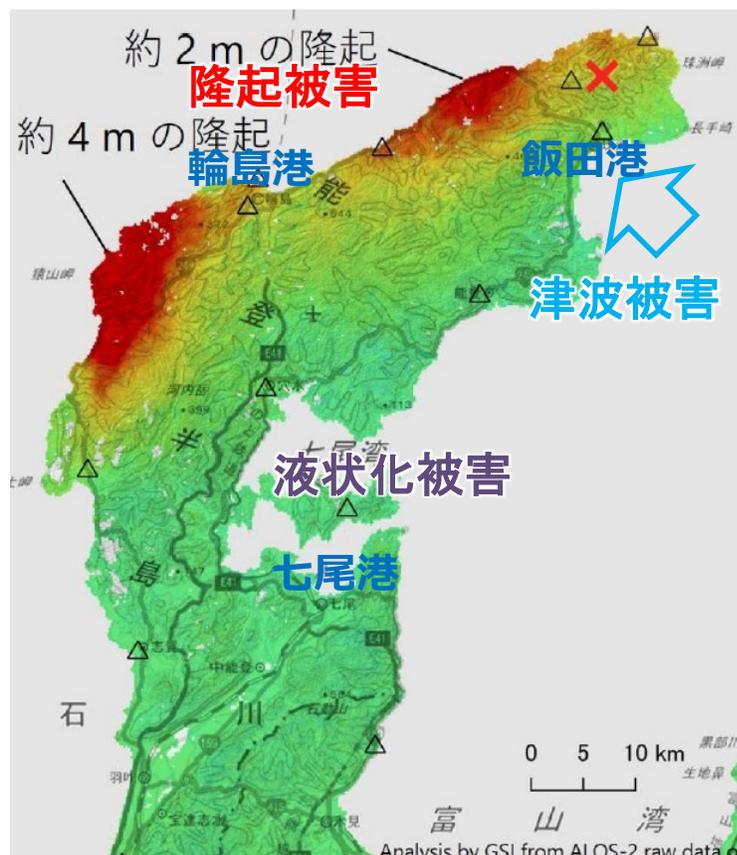
モニター画面のほうをご覧ください

2. 港湾の被害状況

能登半島地震による被害（港湾）



県が管理する金沢港、七尾港、輪島港、飯田港等の10港湾全てにおいて、岸壁や物揚場、防波堤、臨港道路、ふ頭用地など多くの港湾施設が被災



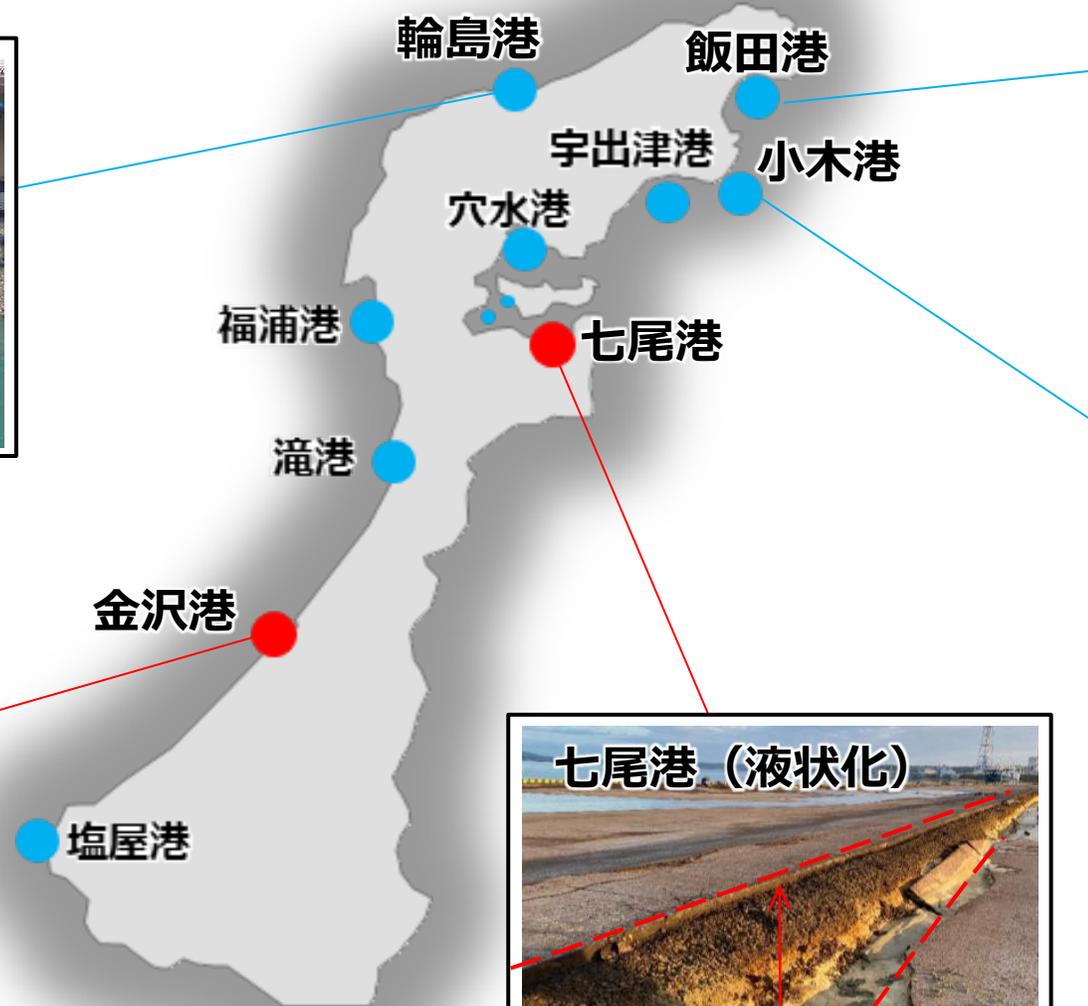
外浦側では
地盤隆起による被害

内浦側では、
津波による被害
が特徴としてみられた。

また、重要港湾である金沢港、七尾港では、
液状化による被害が広範囲に発生した。

能登半島地震による被害（港湾）

（被災状況）



3. 地震発災後の港の役割

能登の災害廃棄物の海上輸送



- ・宇出津港、飯田港、穴水港、七尾港では、公費解体で発生した木くずといった**災害廃棄物**を約**14万トン**搬出し、**海上輸送拠点**として、復旧に貢献した (R6.7月~R7.12)

各港湾における海上輸送状況

港名	開始時期 終了時期
宇出津港	R6.7月~ R7.11月
飯田港	R6.7月~ R7.12月
穴水港	R6.10月~ R7.10月
七尾港	R6.12月~ R7.12月

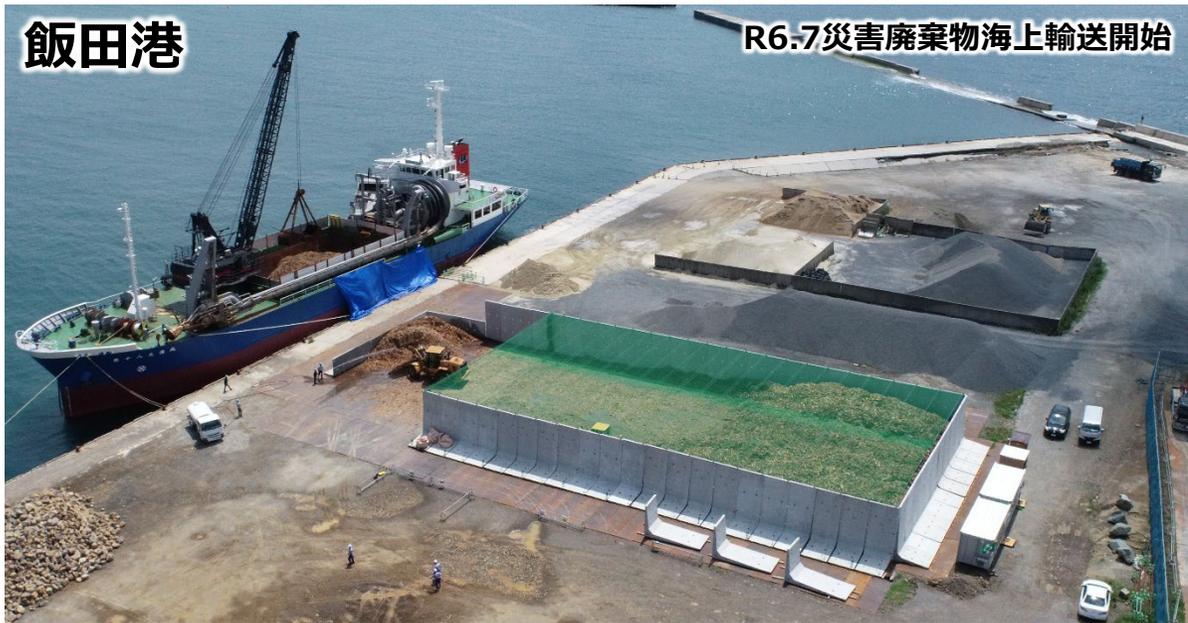


能登の災害廃棄物の海上輸送



飯田港

R6.7災害廃棄物海上輸送開始



七尾港

R6.12災害廃棄物海上輸送開始



公費解体により発生したコンクリート殻
(珠洲市内：ジャンボリー跡地)



穴水港

R6.10災害廃棄物海上輸送開始



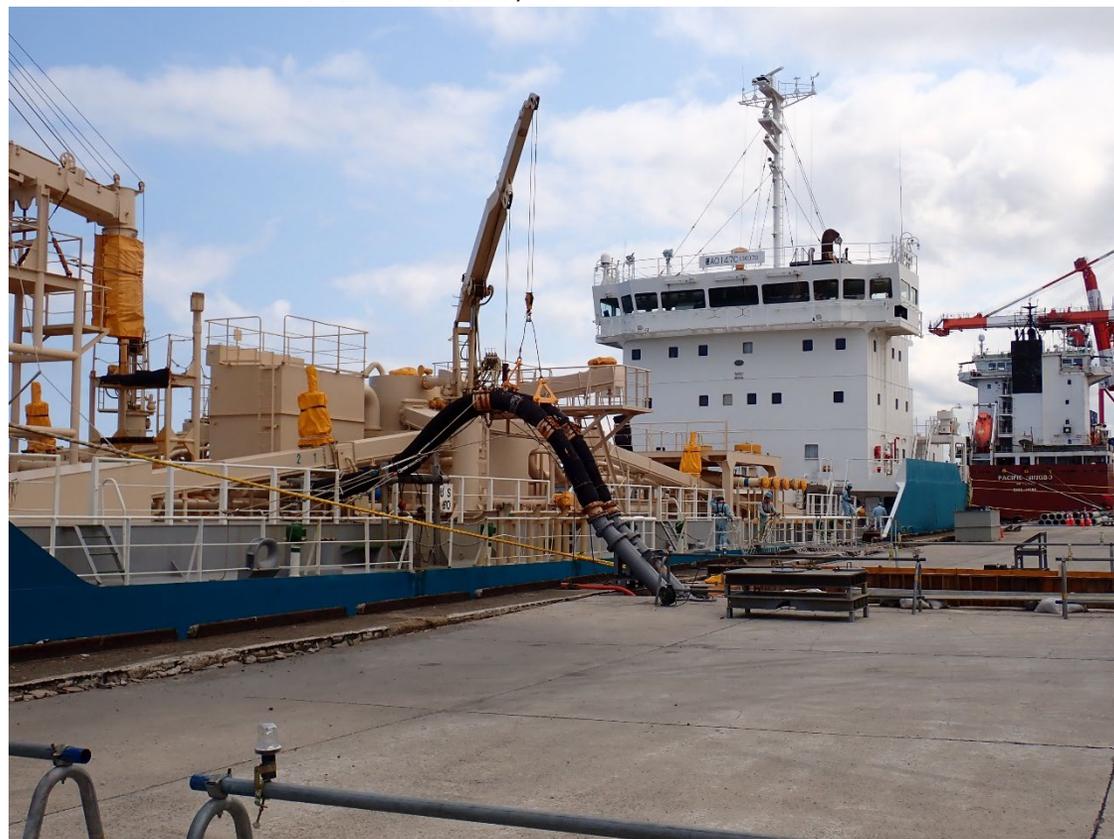
能登へのセメントの供給

- ・金沢港での**セメント船入港再開**により、**海上輸送による大量のセメント運搬が可能**となり、能登半島地震の復旧・復興に向けた資材の安定供給に寄与

金沢港（御供田）



セメント船の着岸状況 (R6.6/5)



セメント船の入港（御供田）

セメント船入港 (R6.6/5)



【セメントの取扱い（A社）】

県内の取扱実績

セメント：4.4万トン（うち金沢港5.0トン） ※一部県外
地盤改良材：6.8万トン（うち金沢港6.5トン）

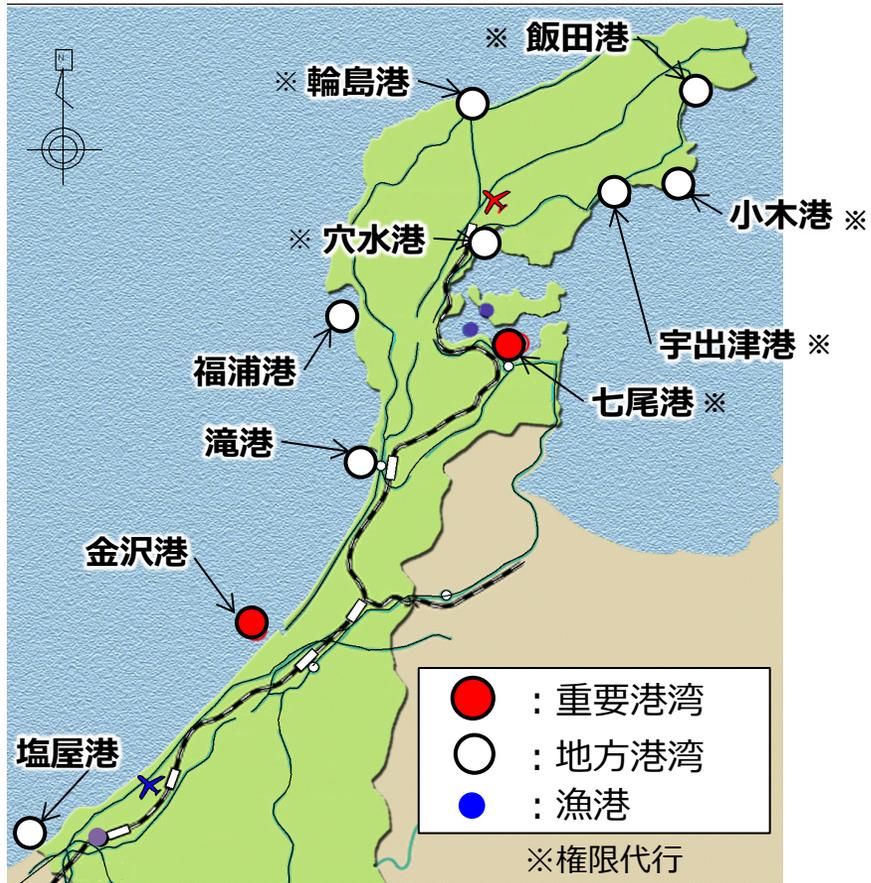
【セメントの輸送方法】

（震災前）海上輸送：約3,000トン/隻（週1～2隻）
（震災後）陸上輸送：100～200トン/日

4. 県内港湾の復旧・復興の状況

港湾の応急復旧

- 能登半島地震により、外浦沿岸部で地盤隆起するなどして、**県管理の10港湾全てが被災**
- 建設業協会などの尽力で、R7.3月までに**全ての港湾で応急復旧が完了**
- このうち、被害が著しく、奥能登の物流拠点である輪島港や飯田港などの一部施設について、**国の権限代行を活用**
→国の権限代行 <港湾> 被災10港のうち6港で実施(輪島港、飯田港、小木港、宇出津港、穴水港、七尾港)



七尾港



陥没したふ頭用地を応急復旧

輪島港



海底隆起により、船が接岸できなくなり、仮棧橋による物揚機能を復旧

輪島港の復旧・復興

・今回の地震では、**地盤隆起（1.0～1.5m）**が発生したことにより、輪島港内の漁船だまりで、座礁や損傷により**約200隻の漁船が身動きを取れない事態**が発生し、**漁業活動が停止**。

輪島港で座礁している漁船



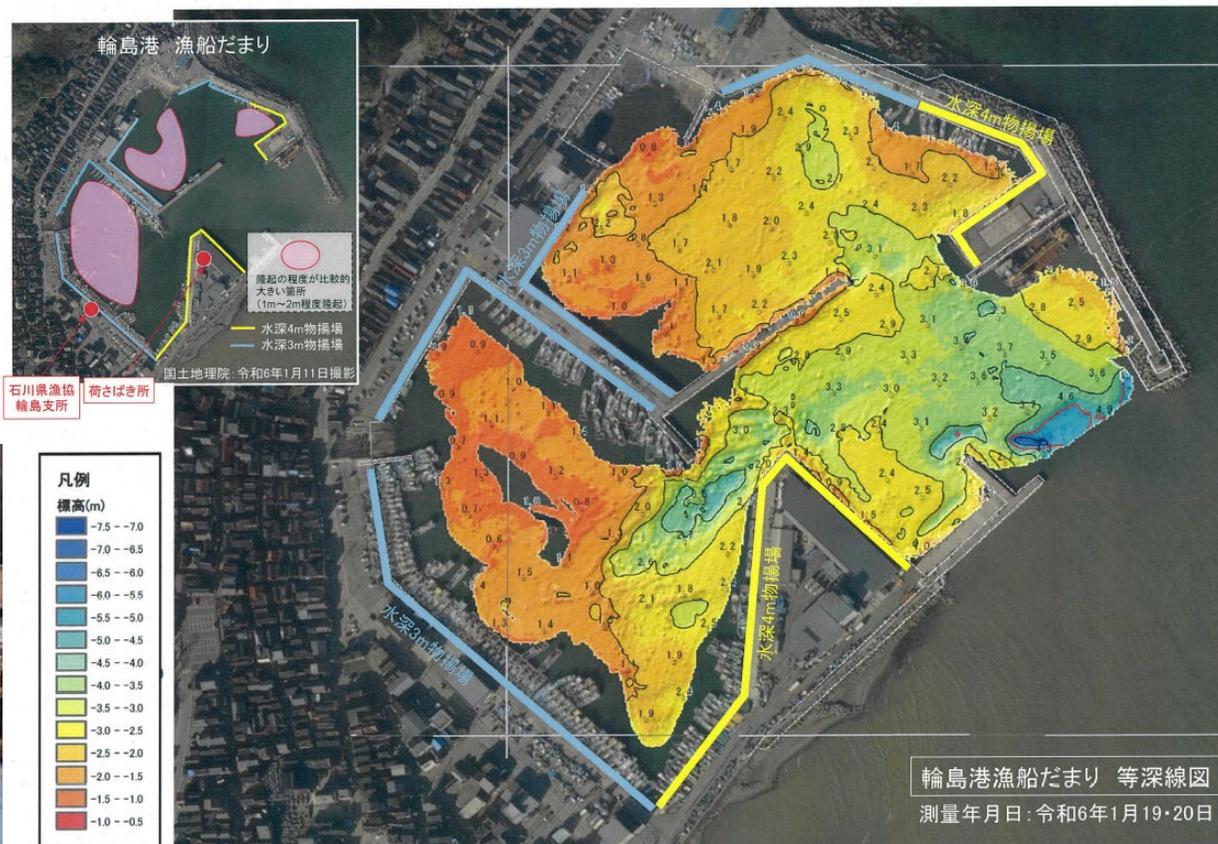
発災前（平成24年3月2日撮影）



発災後（令和6年1月9日撮影）



約1m程度の隆起が発生



輪島港の復旧・復興

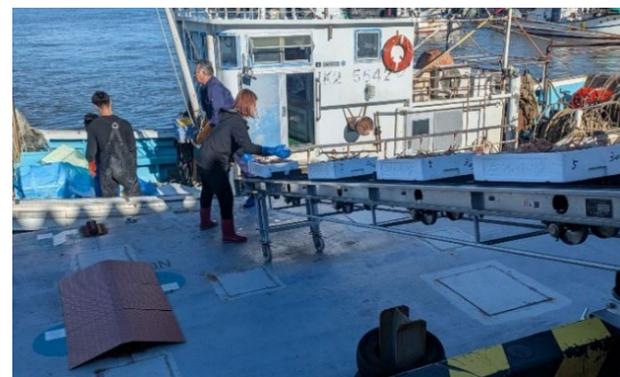
- これまでに漁船の移動に必要な浚渫や、荷捌所前に**仮栈橋を設置するなど応急復旧を完了。**
- 海女漁**(R6.7) や**カニ漁**(R6.10) の解禁に合わせ、**順次操業を再開。舢倉島フェリーの運航再開**(R7.7)
- 今年度は、残る**輪島崎地区の浚渫工事や、物揚場の本格復旧工事に着手。**優先度の高い施設から段階的に復旧促進を図る。



漁船だまり浚渫状況(令和6年8月7日)



仮栈橋設置状況(令和6年4月23日)



仮栈橋の荷揚げ状況(海士地区荷捌所前令和6年11月)



舢倉島フェリー接岸状況(令和7年7月22日)

輪島港の復旧・復興

R6.6月 応急復旧完了
R6.10月 漁業再開



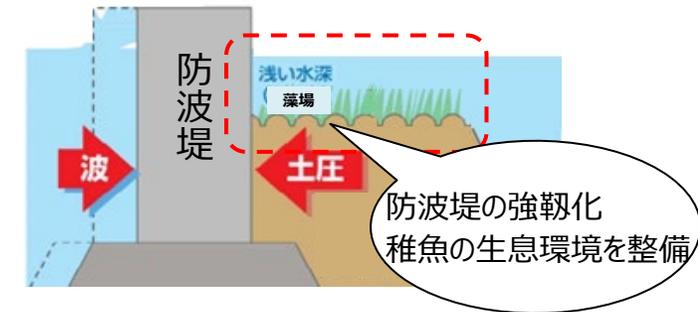
- 国と県が連携し、**主要な岸壁や物揚場のR8年度末の本復旧**を目指す
- 「**輪島港復旧・復興プラン**」(R7.6月策定)では、創造的復興に向け、**港湾機能の強化や強靱化**を図る(R8年度以降)
 - ① 浚渫土で造成した埋立地に複数の**漁業共同利用施設を集約し、機能強化**
 - ② 第4防波堤に浚渫土で浅場を造成し、**外郭施設の強靱化**を図るとともに、稚魚等の生息環境を整備
 - ③ 係船柱の整備など**クルーズ船の受入体制を強化**
 - ④ マリントウン広場の**憩いの空間をリニューアル**



① 共同利用施設を集約・機能強化



② 第4防波堤に浅場を造成



③ クルーズ船の受入体制を強化



④ 憩いの空間をリニューアル



輪島港の復旧・復興

～港と市街地の連携強化・回遊性の向上～

能登の特色ある生業 (なりわい) の再建

関係者の意向に寄り添いながら、人流・賑わいを生み出す港づくりに取り組む

【施策】

- ・漁業共同利用施設の機能集約・強化
- ・漁船だまりの機能再編

暮らしとコミュニティ (にぎわい) の再生

にぎわいと憩いのある港づくりに取り組む

【施策】

- ・港と市街地の連携強化・回遊性の向上



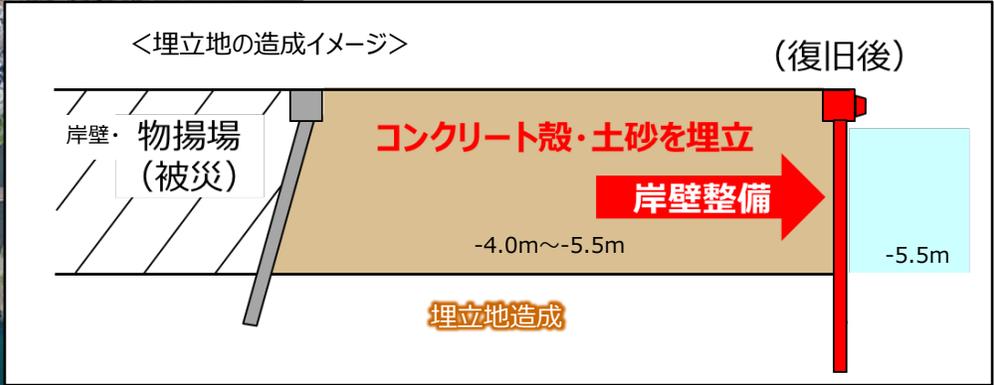
至 輪島市街地

飯田港の復旧・復興

R6.7月 応急復旧完了
R6.7月 廃棄物海上輸送開始



- ・国と県が連携し、沈下した**主要な岸壁 (-4.5m)** について、災害廃棄物などの輸送を優先しながら、**一部区間で今年度末までの本復旧**を目指す
- ・創造的復興に向け、**公費解体で発生したコンクリート殻や災害復旧工事で発生した土砂を活用し、新たな埋立地を造成**

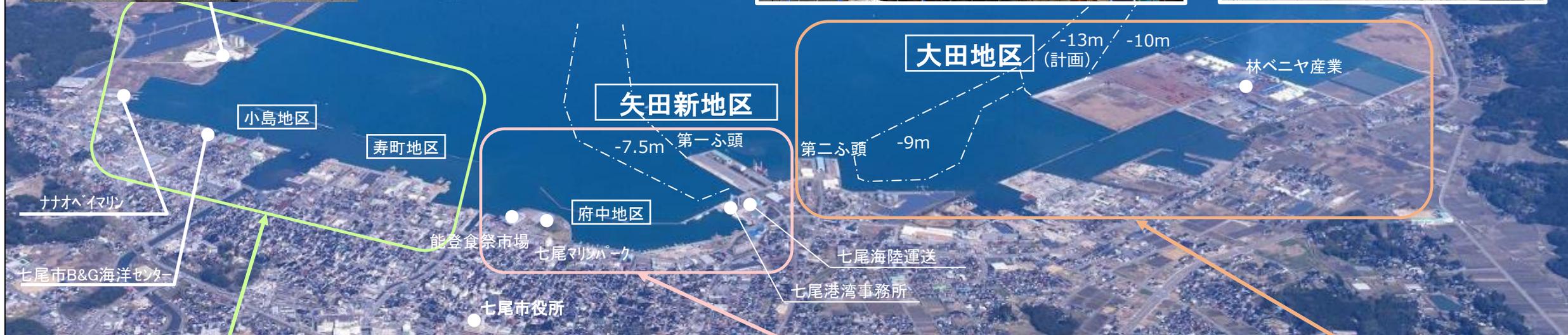
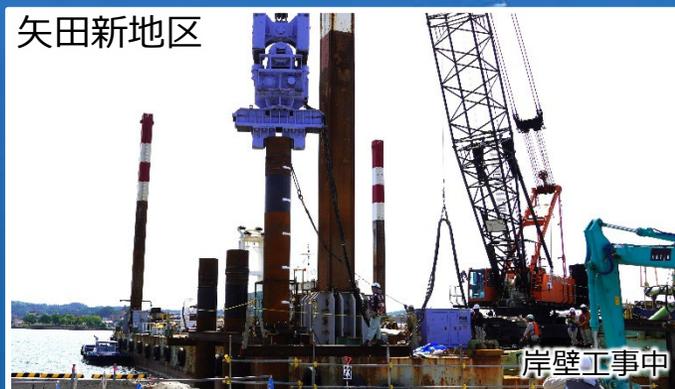


七尾港の復旧・復興

R6.6月 応急復旧完了
R6.12月 廃棄物海上輸送開始



- ・七尾港では、岸壁の損傷や、**背後用地の液状化による陥没等の被害**が広範囲で発生する。
- ・**主要な岸壁やふ頭用地は、物流を確保しながら、今年度末までの本復旧（国代行）**を目指す



⑤ 寿町地区・小島地区・津向地区
・物流関連ゾーン、船溜まり関連ゾーン
(造船所、工場、港湾関連企業) (小型船溜まり)

④ 府中地区・矢田新地区（第一ふ頭）
・交流拠点ゾーン
(七尾マリナパーク、能登食祭市場、クルーズ船寄港地)

③ 大田地区・矢田新地区（第二ふ頭）
・物流関連ゾーン
【取扱貨物】 木材、中古車、風力発電資材、肥料

宇出津港・小木港・穴水港の復旧



- ・ 内浦側の港の特徴である**地盤沈下**等による**冠水被害が発生**し、住民生活に大きく影響を及ぼす
- ・ これまで、**舗装の嵩上げ**、**排水ポンプ**などによる**応急復旧**を実施
- ・ 冠水、高潮の緊急対策として、**本年の出水期までに物揚場や舗装の嵩上げを実施**

冠水状況（宇出津港）



冠水状況（小木港）



冠水状況（穴水港）



応急復旧状況（8月完了）



応急復旧状況（9月完了）

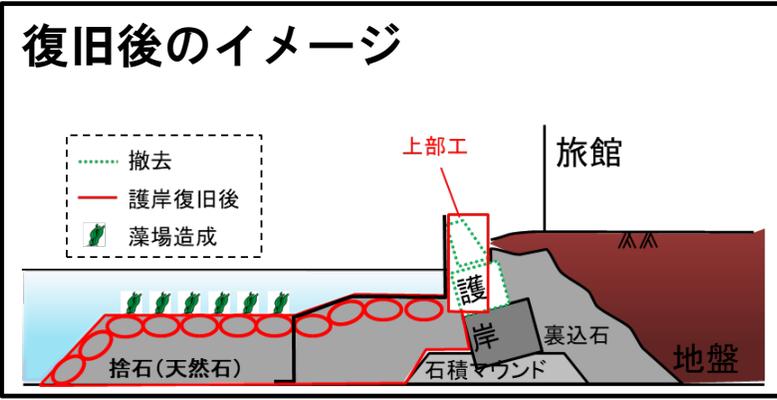
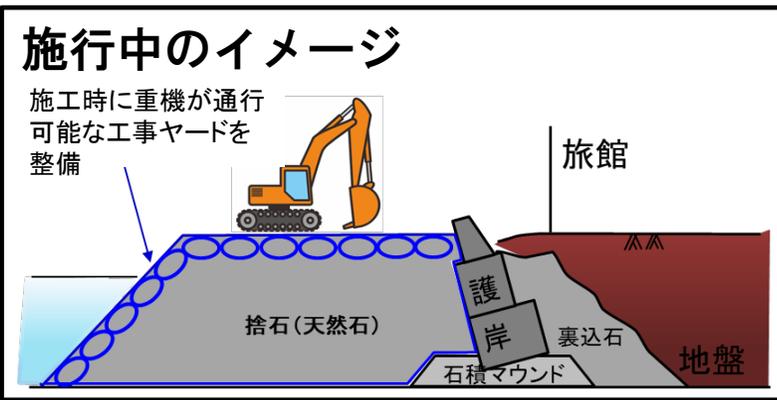


応急復旧状況（11月完了）



和倉温泉護岸の復旧

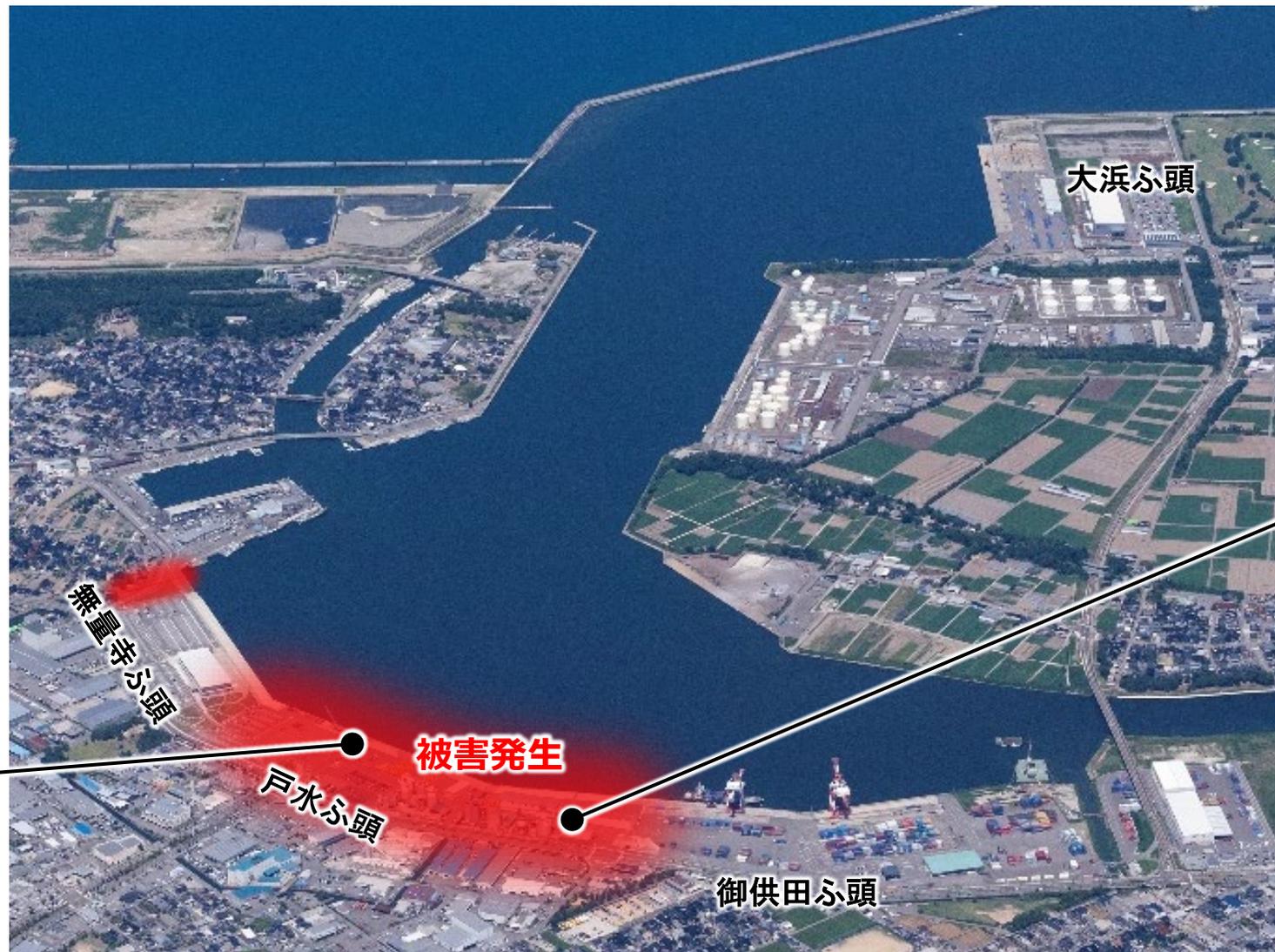
- ・能登半島地震により、和倉温泉旅館などの私有護岸や七尾市が管理する護岸などが広範囲に被災
- ・**私有護岸については、県・市に公共帰属させ、県・市で復旧**（市の復旧箇所は国が権限代行等によりに施工）
- ・**昨年9月までに全ての区間で工事に着手し、旅館が近接する1.8 kmを優先的に復旧を進め、県が施工する0.7 kmでは今年度内、国が施工する1.1 kmは来年度中の完成を目指す**



5. 能登半島地震を踏まえた 金沢港の港湾計画の見直し (金沢港将来ビジョン)

金沢港の被害状況

・物流機能を担う戸水ふ頭、御供田ふ頭では、岸壁の損傷や、背後用地の液状化による陥没等の被害が広範囲で発生



金沢港で発生した問題点

- ・ 戸水ふ頭、御供田ふ頭(一部)の損傷により、物流（建設機械、セメント、鋼材）の停滞が発生
- ・ 大浜ふ頭への利用転換により、ふ頭用地不足に直面

【地震により発生した問題点】

戸水ふ頭と御供田ふ頭（一部）で岸壁損傷、ふ頭用地の液状化、陥没



【ふ頭用地不足（大浜ふ頭）】



安全・安心の分野

目指すべき将来像

重点戦略

施策の方向性

具体的な施策

安全安心で持続可能な
社会を形成する金沢港

大規模地震等
に備えた
国土強靱化に
資する港づくり

〈13〉大規模地震・津波
等への対応力強化

〈14〉港湾施設の長寿命
化に向けた戦略的な
整備と維持管理

⑬ - 1 大規模災害発生時における物流機能維持
に向けた港湾施設の強靱化

⑬ - 2 災害に強い防災拠点の構築

⑬ - 3 災害支援のための港湾施設の強靱化

⑬ - 4 大規模災害発生を想定した定期的な訓練の
実施による関係機関との連携強化

⑭ - 1 港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス

⑭ - 2 港内への流入土砂への対応

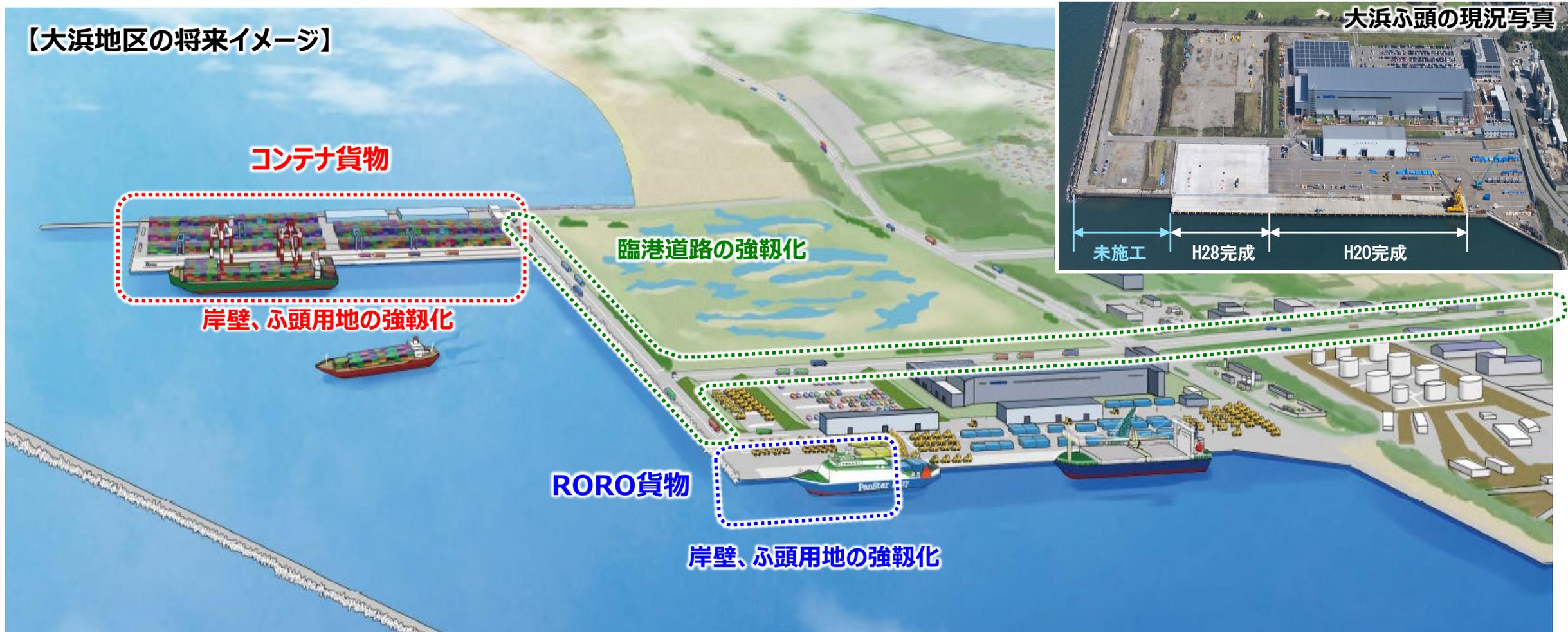
【重点戦略】大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり

【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-1：大規模災害発生時における物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化

(短期～中期)

【大浜地区の将来イメージ】



大規模災害発生後でも経済活動を維持するため、港湾施設（岸壁、ふ頭用地、臨港道路）の強靱化に取り組み、災害に強い港湾を目指します。

【重点戦略】大規模地震等に備えた国土強靱化に資する港づくり

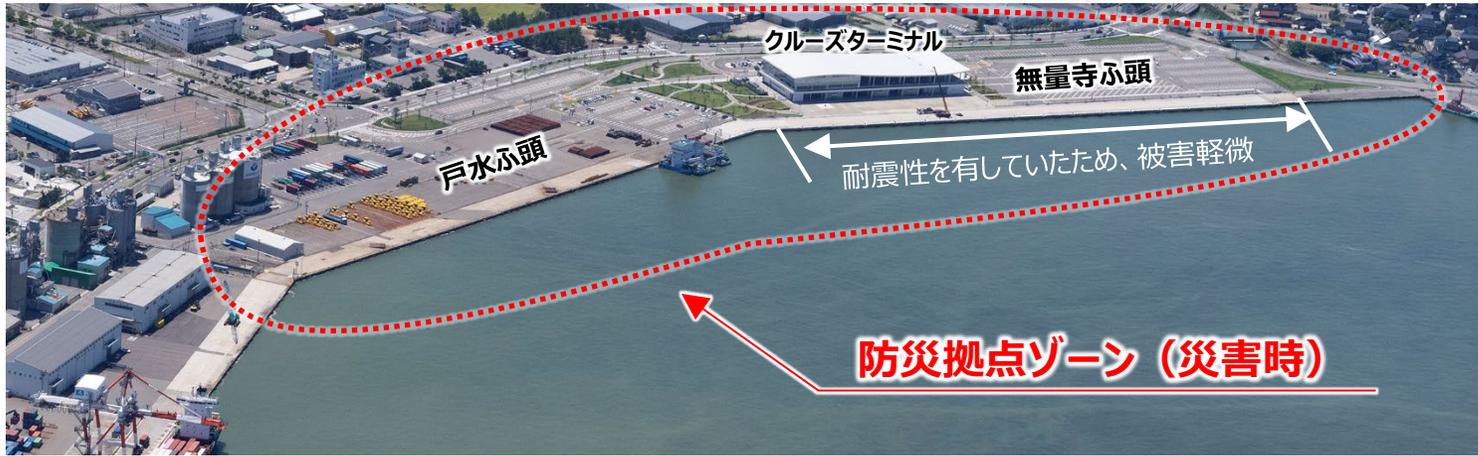
【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-2：災害に強い防災拠点の構築

(短期～中期)

施策⑬-3：災害支援のための港湾施設の強靱化

(短期～中期)



大規模災害発生時に金沢港に必要な拠点機能

- ① 被災地支援への拠点
- ② 水、食料等の緊急物資の輸送拠点
- ③ 被災者が一時的に避難できる拠点
- ④ ヘリが離発着可能な拠点

能登半島地震時の金沢港クルーズターミナルの利用状況

※支援物資の一時保管として利用



被災者休養施設用の貨客船 (はくおう)



能登半島地震時のオープンスペースの利用状況

※自衛隊基地、仮設トイレ等



無量寺ふ頭、戸水ふ頭エリアを災害時の防災拠点ゾーンとし、クルーズターミナルを核とした防災拠点の構築に努めるとともに、緊急物資等の受入機能を確保できるよう港湾施設（岸壁、ふ頭用地）の強靱化を目指します。

【⑤増加するクルーズ船の受入体制の強化】

施策⑤-1：多様なクルーズ船の誘致と受入体制の強化

ソフト施策（短・中期～長期）

ハード施策（中期～長期）

- ・経済効果の高いクルーズ船(ラグジュアリー船、発着クルーズ)の誘致
- ・北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致
 - 海外クルーズ見本市への出展や船会社訪問、他港と連携した共同プロモーションの実施、船会社・旅行社等の幹部招へい など
- ・受入体制の強化
 - 多様なクルーズ船受入機能の強化
既存の物流機能に加え、クルーズ船の2隻同時着岸や、大型クルーズ船にも対応できるよう努めることとする。
 - シャトルバスや物販などの充実
利便性向上のためシャトルバスの運行を促進する。
物販や県民による歓送迎の充実を図る。

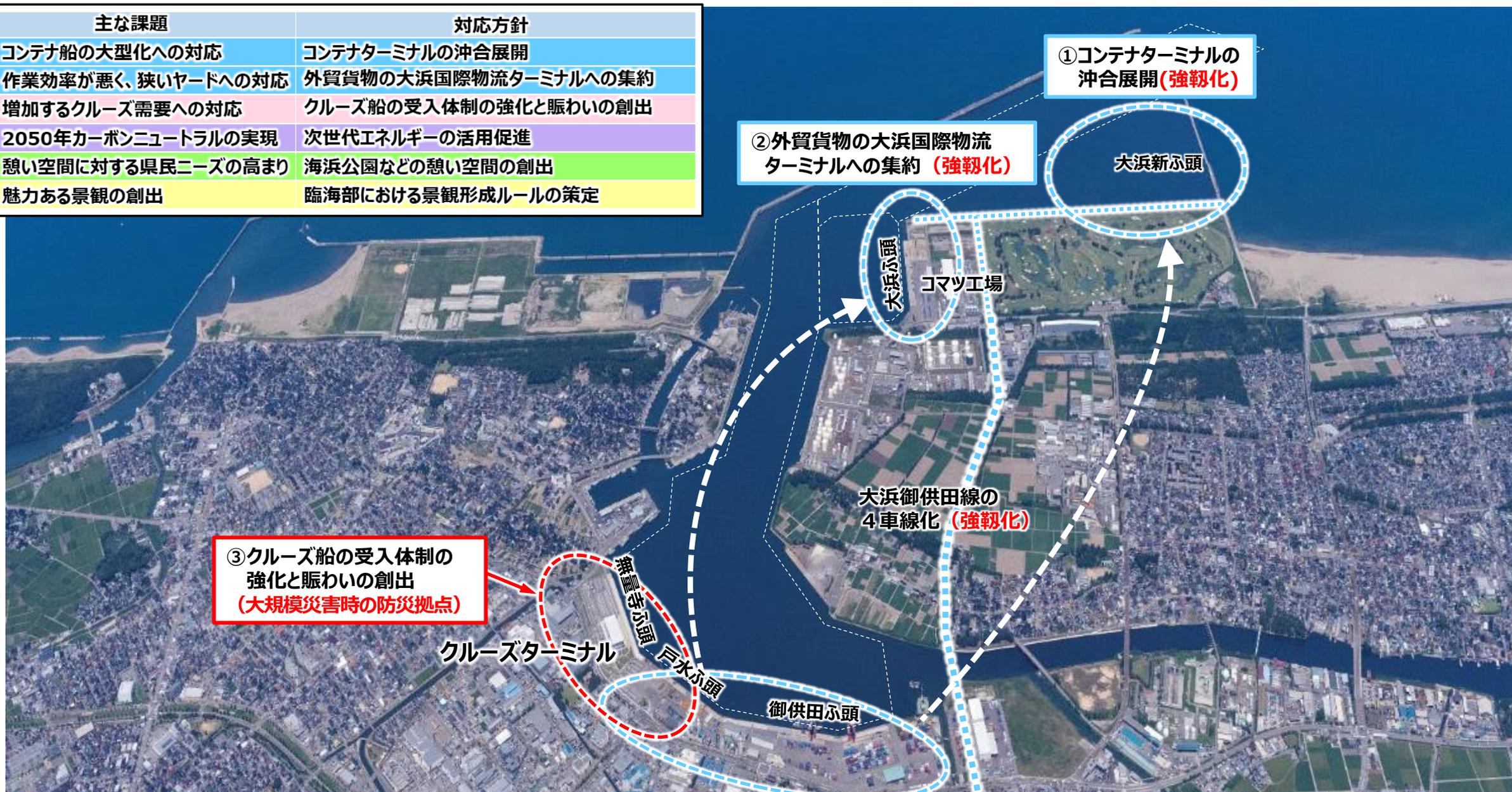
無量寺ふ頭周辺の将来イメージ



➡ 多様なクルーズ船の誘致を進めるほか、クルーズ船の増加や大型化に対応できるように受入体制の強化を行い、賑わいと交流のある港づくりを目指します。

金沢港将来ビジョンの概要

主な課題	対応方針
① コンテナ船の大型化への対応	コンテナターミナルの沖合展開
② 作業効率が悪く、狭いヤードへの対応	外貨貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約
③ 増加するクルーズ需要への対応	クルーズ船の受入体制の強化と賑わいの創出
④ 2050年カーボンニュートラルの実現	次世代エネルギーの活用促進
⑤ 憩い空間に対する県民ニーズの高まり	海浜公園などの憩い空間の創出
⑥ 魅力ある景観の創出	臨海部における景観形成ルールの方策



① コンテナターミナルの
沖合展開 **(強靱化)**

② 外貨貨物の大浜国際物流
ターミナルへの集約 **(強靱化)**

③ クルーズ船の受入体制の
強化と賑わいの創出
(大規模災害時の防災拠点)

大浜御供田線の
4車線化 **(強靱化)**

金沢港の復旧・復興

R6.6月 応急復旧完了
R6.6月 セメント船受入再開



- 物流機能に支障が出ないように、**御供田ふ頭と戸水ふ頭を交互に復旧**（R8年春 戸水ふ頭の本復旧完了予定）
- 被災した能登へ支援物資を運ぶため、被害が軽微だった**無量寺ふ頭について、復旧に合わせて耐震強化岸壁を延伸**
- R7.3月に改訂した「**金沢港港湾計画**」に基づき、**物流機能の強化と強靱化**を推進（大浜御供田線の4車線化について、今年度から事業に着手）

主な復旧内容

- ①**御供田ふ頭**
応急復旧を終え、セメント船の受入れを再開（R6.6月）
戸水ふ頭の本復旧を完了後、本復旧に着手
- ②**戸水ふ頭**
R8年春までに本復旧を完了
- ③**無量寺ふ頭**
本復旧に合わせ、今年度から耐震強化岸壁の延伸の設計に着手
(320m→366m)、物資輸送船の同時接岸の拡大(2隻→3隻)

「金沢港港湾計画」に基づく機能強化

- ④**大浜埋立護岸を整備**
大浜航路の水深13m化に伴う浚渫土砂の処分先を確保
- ⑤**大浜大水深岸壁を延伸**（400m→520m）
岸壁の延伸による貨物船と大型クルーズ船の同時接岸が可能
- ⑥**大浜御供田線の4車線化**
海路と陸路を円滑に結ぶため、物流機能の強化に**今年度から着手**



今回の能登半島地震の特徴

- 半島地域という地理的制約により、平地が少なく、アクセス道路が限られ、人員・資機材の大規模投入が困難
- 過疎・高齢化地域という社会的制約
- 正月、厳冬期という時期的制約

今後の港の課題

○災害時においても物流機能維持に向けた港湾施設の強靱化

- ・壊れても利用できる粘り強い係留施設の確保（耐震強化岸壁）

○災害に強い防災拠点の構築

- ・災害支援に対応した大型船舶が接岸できる岸壁水深の確保（適正配置の検討）
- ・大規模災害時に防災拠点に活用できるオープンスペースの確保（通常時は広場）

○港管理に対するソフト対策の充実

- ・港の利用状況が把握できる管理システムの構築

**能登半島地震からの復旧・復興を
さらに加速するためには、
皆様のお力が必要です。
ご協力を宜しくお願い致します**